

## 共感性と刺激提示方法の違いが援助想像と援助意図に与える影響

中迫良佑

(広島国際大学大学院 心理科学研究科 実践臨床心理学専攻)

## 問題と目的

本研究では、共感性を多角的に測定できる多次元性共感性尺度(MES)(鈴木・木野, 2008)を構成する要素が向社会的行動にそれぞれどのような影響を与えているかを検討した。

また、豊田(2021)は刺激の提示方法の違いが援助想像、援助意図に及ぼす影響を検討する実験を行い、援助想像が鮮明であるほど援助意図が高いことや、過去に実際に似たような援助場面に遭遇した人ほど、援助意図が高まった可能性を示した事を参考に、本研究では、MESの他者指向的反応と自己指向的反応に着目し、これらが実際の援助場面において援助想像と援助意図にどのような影響を与えるのかを検討し、その際刺激の提示方法を文章刺激とイラスト刺激に分けることで、それぞれが援助想像と援助意図にどのような影響を及ぼすかも検討した。

## 方法

**調査対象者** D大学に所属している大学生 116名(男性 73名/女性 43名/平均年齢 20.30歳( $SD=1.68$ ))

**提示刺激** 豊田(2021)で使用された質問紙を参考に、人が援助を必要としている場面を表したイラスト刺激と文章刺激を作成した。

**調査項目** 豊田(2021)で使用された質問紙を参考に、経験の有無 2件法、援助想像の鮮明さ 7件法、援助意図の強さを 7件法、過去の経験 2件法を使用した。鈴木・木野(2008)の多次元性共感性尺度。

## 結果

多次元共感尺度(MES)における他者指向的反応と自己指向的反応の因子構造を検討する為、確認的因子分析を行った。因子分析の結果から、因子負荷量の推定値が.40以下の1項目を除外した。これら2因子の内的整合性を検討する為、 $\alpha$ 係数を算出した。他者指向的反応因子は $\alpha=.852$ 、自己指向的反応因子は $\alpha=.507$ であった。

多次元性共感性尺度と援助想像・援助意図の関連を見る為文章刺激、イラスト刺激別に相関分析を行った。文章刺激では、過去の経験と援助想像の鮮明さに弱い負の相関( $r=-.352, p<.001$ )が認められた。援助想像は他者指向的反応との間に弱い正の相関( $r=.369, p<.001$ )が認められ

た。

イラスト刺激では、援助意図と他者指向的反応との間に弱い相関( $r=.391, p<.001$ )が認められた。

刺激の種類と他者指向的反応の高低を独立変数、援助想像を従属変数として2要因分散分析を行った。その結果、他者指向的反応の主効果( $F(1, 109)=16.180, p<.000, \eta^2 p^2=.0.129$ )が有意であった。(Figure1)

刺激の種類と他者指向的反応の高低を独立変数、援助意図を従属変数として2要因分散分析を行った。その結果、他者指向的反応の主効果( $F(1, 109)=16.992, p<.000, \eta^2 p^2=.0.135$ )が有意となった。(Figure2)

自己指向的反応も同様の分析を行ったが、有意な差は見られなかった。

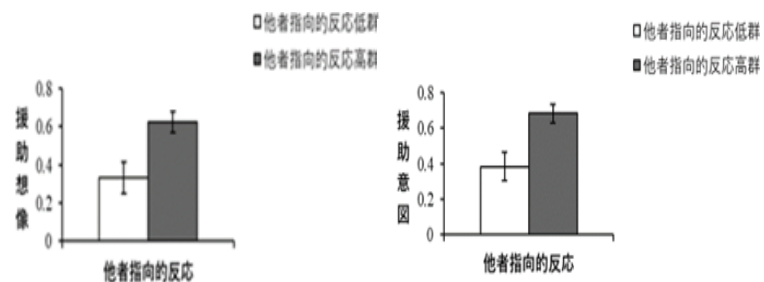


Figure1 他者指向的反応が援助想像に及ぼす影響

Figure2 他者指向的反応が援助意図に及ぼす影響

## 考察

他者指向的反応の主効果が援助想像・援助意図において有意であったことから、調査対象者の他者指向的反応が、援助想像・援助意図を高めた事が推測される。このことから、他者指向的反応傾向が援助想像・援助意図を高める要因となることが考えられる。

## 参考文献

鈴木 有美・木野 和代 (2008). 多次元共感性尺度(MES)の作成 -自己指向・他者指向の弁別に焦点を当てて- 教育心理学研究 56, 487-497

豊田 雪乃・小林 正法・大竹 恵子 (2021). 援助想像が援助意図に及ぼす影響 心理学研究, 92, 111-121